

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム 百々		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32 (電話) 058-240-6812		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	14.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000・42,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 62 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沢田内科・高瀬歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者・管理者は、町内で1番のグループホームを目指し、利用者及びその家族に加えて職員も含め大きな家族と捉えているため、働きやすい環境を整える事でケアの向上を目指している。この春より新しいケアマネージャーを迎え、個別性の高いケアプランを作成し、利用者の自立・自宅復帰を目標に日々努力している。また、年に1度の1泊2日の温泉旅行を実施し、いままです、1人の欠席もなく全員参加し、利用者の大きな楽しみ・目標となっている。この旅行に参加するために、健康・リハビリへの関心も高く日々のケアに活かしている。また、利用者同士で喫茶店に出掛けるなど、利用者の意欲を高めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	小休止できるような椅子が設置され、記録物の記入方法は分かり易く変更され、楽しく食事ができる環境作りも出来ている。市町村との関わりについては取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員全員が評価項目を読み込み、日ごろのケアに活かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に定期的に参加し、自治会や包括支援センターとの交流を深め、地元に関わり関係作りに努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情に対する取り組みも積極的に行っており、面会時など職員の方から話しやすい雰囲気作りに配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への加入により、地元の花見や食事会にも参加し、近隣とも友好的である。近隣グループホームと情報交換を始めたが、より連携し、共にレベルアップを図る方法を模索中である。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で心やすらぐ毎日を」という理念に基づき、地域に根付いた暮らしを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニット内にも見やすい位置に理念が掲示され、会議や日々のケアの中にも取り入れられている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地元住民との交流を図り、敬老会や花見にも参加し、認知症を理解されるよう取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価での要改善点に対し、管理者及び職員で話し合い、出来る事から改善に取り組んでいる。	○	自己評価は職員も一緒に行なうが、次のステップの改善点をケアにつなげる作業を全職員が共通の認識を持って取り組んで欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会・民生委員・包括支援センター・利用者及び家族が出席し、2・3カ月に1度開催し、意見交換を行なっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場へは毎月利用者の状況を知らせるなど、常に連携を図っている。また、その都度相談にも応じてもらっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度金銭出納の連絡の際、個々の暮らし振りなど報告している。体調不良などはその都度こまめに連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項に苦情相談窓口が明記されている。ホーム内玄関先に意見箱も設けてある。家族の面会時には声かけし話やすいよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員も家族のうちという考えから、ユニット毎の職員体制ではあるが、2ユニットの交流を常に図ることで離職者が出ても全体でカバーし、利用者へのダメージを最小限に抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修への出席を奨励しており、職員全員に勤務内で出席できるよう配慮している。	○	研修計画・研修報告の記録物がないため、今後は作成され、知識の共有とされたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への出席はあるものの、同業者同士の交流までには至っていない。運営者は地域密着型サービスを意識し、学習会や交流会へと模索中である。	○	地域内のグループホームとは情報交換のみにとどまっている現状から、さらに、思いを形に現し、出来ることから取り組まれる事を期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はないが、きめ細かい事前面談があり、出来るだけ入居前の生活と大きく変わらないようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な事（梅干を漬ける・畑や花壇作り・パソコン）を一緒に行い、教えてもらう事も多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や散歩は本人の意向を伺い行なっている。リビング用のカレンダーを手作りする利用者やパソコンを使用する利用者もあり、「手伝って」と言われれば一緒に行なうようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、また日々のケアから得た情報を加味した上での個性性の高い介護計画となっている。作成後、家族からの同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化などにより介護計画の見直しが必要となった場合、家族にも連絡し状況に即したプランの変更を行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会者の宿泊が食事代のみで出来る。通院介助に関しては家族の協力が得られない時は、有償ではあるがホームの職員が同行支援を行なっている。ホーム内で希望者に対し散髪サービスを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週1回の往診もあり、家族からの安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期など家族の希望に添えるよう、医療との連携を図り取り組む姿勢がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さり気ない声かけや対応で、一人ひとりの尊厳を大切にされたケアの実践がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間に入浴する・利用者同士のみで喫茶店へ行くなど利用者間で決め実行している。また、花壇作りなど、入居以前からの楽しみも続けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で野菜を収穫したり、その野菜を使った献立を聞くなど、食事を通し会話も弾んでいる。利用者も食後の食器洗いやトレイ拭きを行い、役割を担っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が行なわれている。夜間に入浴したいという希望には、人員配置に配慮し、対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が各々の役割を認識しており、台所の手伝いやカレンダー作りを積極的にしている。他のユニットとの方と友人になる利用者もあり、ホームでの生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気にふれるのは大切な事から散歩は出来る限り支援されている。毎年行なわれる1泊旅行は欠席者も無く、本人・家族の楽しみの一つとなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠されておらず、日中は裏口も開放され風が通り抜けている。訪問しやすい体制となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの年1回の避難訓練の他に、自主的に避難訓練を利用者と共に行なっている。	○	万が一の時のために最低必要な備蓄品の充実を図られたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ食や常食など好みや状態別に提供し、介助が必要な人には職員が声かけしながら介助を行なっている。摂取量の記録もある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いもなく、ホーム内は明るく、庭に咲いた花々が飾られ季節感が溢れていた。必要なものは手の届く範囲にあり暮らしやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに制限は設けておらず、入居前からの使い慣れた道具をおいている。居室も明るく過ごしやすくなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。